

# モーツァルト室内管弦楽団 第185 回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester Japan / 185.Regulärkonzert



**2018年12月9日(日)午後2時■いずみホール**

Sonntag, 9. Dezember, 2018 14Uhr Izumi Hall Osaka

- 主催：NPO 法人モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.moz-kam.org>
- 協賛：いずみホール〔一般財団法人 住友生命福祉文化財団〕
- マネジメント：大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504

\*2017年2月モーツァルト室内管弦楽団はNPO法人となりました。



## モーツァルト室内管弦楽団 第185回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester/185. Regulärkonzert

2018年12月9日(日)午後2時●いずみホール

Sonntag, 9. Dezember, 2018 14Uhr Izumi Hall Osaka

## モーツァルト

Wolfgang Amadeus Mozart  
(1756-1791)

### 歌劇《フィガロの結婚》K.492 序曲

Ouvertüre zur Oper „Le nozze di Figaro“ KV 492

### ピアノ協奏曲 第19番 へ長調 K.459\*

Klavier-Konzert Nr.19 F-dur KV459\*

I. Allegro

II. Allegretto

III. Allegro assai

\* \* \*

### レクイエム ニ短調 K.626\*\*

Requiem d-moll KV 626\*\*

- |                            |                       |
|----------------------------|-----------------------|
| I. 入祭唱 Introitus           | IV. 奉献唱 Offertorium   |
| II. 憐みたまえ Kyrie            | 1. 主イエズスよ Domine Jesu |
| III. 続唱 Sequentia          | 2. 讚美のいけにえ Hostias    |
| 1. 怒りの日 Dies irae          | V. 聖なるかな Sanctus      |
| 2. 不思議なラツパ Tuba mirum      | VI. ほむべきかな Benedictus |
| 3. おそろべきみいつの王 Rex tremende | VII. 神の子羊 Agnus Dei   |
| 4. 思いたまえ Recordare         | VIII. 拝領唱 Communio    |
| 5. 呪われし者 Confutatis        |                       |
| 6. 涙の日 Lacrimosa           |                       |

ピアノ：中村 勝樹\* / Klavier : Masaki Nakamura\*

ソプラノ：田中 希美\*\* / Sopran : Nozomi Tanaka\*\*

アルト：高原 いつか\*\* / Alt : Itsuka Takahara\*\*

テノール：松原 友\*\* / Tenor : Tomo Matsubara\*\*

バス：松下 雅人\*\* / Bass : Masato Matsushita\*\*

合唱：モーツァルト記念合唱団 / Chor : Mozart Choral Ensemble

合唱指揮：益子 務 / Chordirigent : Tsutomu Masuko

コンサートミストレス：鷺山 かおり / Konzertmeisterin : Kaori Washiyama

指揮：門 良一 / Dirigent : Ryoichi Kado



**■モーツァルト: 歌劇《フィガロの結婚》K.492 序曲**

モーツァルトの最も有名で、しかも彼の生前に大成功を取ったオペラの序曲であるが、モーツァルトの序曲中에서도最も知られたものとなっている。音楽そのものはオペラの本編と共通する要素は全くない。この点では他のオペラの序曲、《ドン・ジョヴァンニ》、《コジ・ファン・トゥッテ》、《魔笛》とは異なっている。このオペラの副題である「狂った一日」の名の通りあわただしく性急な様子が音楽的に見事に表現された名曲である。

**■モーツァルト: ピアノ協奏曲 第19番 へ長調 K.459**

1784年、モーツァルト28歳の作品。この1784年という年はモーツァルトがピアノ協奏曲の作曲に集中した年で、第14番変ホ長調K.449、第15番変ロ長調K.450、第16番ニ長調K.451、第17番ト長調K.453、第18番変ロ長調K.456、それにこの第19番へ長調K.459といういずれ劣らぬすばらしい作品が生まれている。これらの作品がそれ以後に作られた第20番ニ短調K.466や第23番イ長調K.488などに比べて今日滅多に演奏されないことは非常に残念であり、もっと見直されていいと思われる。この第19番はこれらの協奏曲の中でもやや小粒な印象を与えるようだが、小節数で比較するとシンフォニックな大曲とみなされる第20番と全く同格なのである。第2楽章に2度ほど現れる短調のエピソードや第3楽章のフーガ的な展開などは非常に魅力的である。作曲の6年後の1790年10月に、レオポルト2世の戴冠式を祝してピアノ協奏曲第26番K.537《戴冠式》とともに演奏されたことから「第2戴冠式協奏曲」と呼ばれることがある。

**■モーツァルト: レクイエム ニ短調 K.626**

モーツァルトが生涯の最後に書いた異常ともいえる作品である。彼の最後の年は3つの大作の作曲がほとんど同時進行で行われていた: 2つのオペラ、《魔笛》と《皇帝ティトゥスの慈悲》、それにこのレクイエムである。それらの間隙を縫ってクラリネット協奏曲などが書かれているのであるから底知れぬ天才ぶりである。その天才をもってしてもレクイエムが未完に終わったのはなぜであろうか。他の曲は完成されているのに、である。

モーツァルトの最後の10年間は、ハイデンとヘンデルからの影響との格闘であったといえる。この二人がモーツァルトとは全く違った作曲家であったがゆえに、その様式を自己の作品に取り込むことは、自己の存在を根底から揺るがしかねない無謀ともいえる試みであった。弦楽四重奏曲集「ハイデン・セット」でモーツァルトは大いに苦しみ、またヘンデルを模した壮大な宗教曲「ハ短調ミサ」は未完に終わった。レクイエムにおいてもヘンデルの痕跡はあきらかで、冒

頭の「入祭唱」や続く「キリエ」ではヘンデルの作品との一見してわかる酷似性が学者によって指摘されている。50年以上前に完成された音楽様式を消化しきることはモーツァルトの天才をもってしても無理があった、というのが未完の理由ではないかと思う。

さて、今日この曲はモーツァルトの弟子であるジュスマイヤーが未完部分を補完したかたちで演奏されている。モーツァルトは死の床でジュスマイヤーに指示を与えたと伝えられる。「サンクトゥス」、「ベネディクトゥス」、「アニヌス・デイ」の3つの章は「私の作曲である」とジュスマイヤーは言っているが、はたしてそうだろうか。「サンクトゥス」は他の章と全くパランスが取れない短さで、音楽の展開もお粗末である。「ベネディクトゥス」は「サンクトゥス」がニ長調であるのに対して、その長3度下の変ロ長調で書かれている。その後半は「サンクトゥス」の後半と同じ「オザンナ」が繰り返されるのだが、それがニ長調に回帰せず変ロ長調のままなのである。モーツァルトなら自在に転調して簡単にニ長調に戻せたであろうが、不肖の弟子ジュスマイヤーにはそれができなかった。ということは、「ベネディクトゥス」の変ロ長調という調性はモーツァルトがすでに決めていたのではないか、少なくともその主題くらいはスケッチとして残っていたのではないか、という推理が成り立つように思う。「ベネディクトゥス」はお粗末な「サンクトゥス」に比べればかなり良くできており、主題もいかにもモーツァルトを思わせるものである。

それはともかく、ジュスマイヤーの補完部分は初演当初から悪評であり、最近になってもさまざまな改作が試みられているが、結果的に誰もモーツァルトになることはできないのであって、では悪くとも直弟子のジュスマイヤーのもので満足せざるを得ないのではなかろうか。因みに、バーンスタインやマリナーが使い、最近ではアルノンクールが用いている「バイヤー版」というのがあるが、これはジュスマイヤーの補完部分のオーケストレーションを改訂しただけのものであって(結果としてさらにつまらなくなっているのだが)、基本的にはジュスマイヤーの作品であり、「ジュスマイヤー版」か「バイヤー版」というふうに対置させるのは誤りである。

ジュスマイヤーの名誉のために一言付け加えよう。有名なラクリモーザ(涙の日、あるいは嘆きの日)は最初の8小節だけがモーツァルトの手になるもので、その後の部分はジュスマイヤーが補ったのであるが、これはまずまずの出来ではないだろうか。8小節だけなら今日演奏されることはまずあるまいと思われる。いろいろと問題はあるにせよ、まがりなりにも完成した作品にして演奏できるかたちにした、というのはジュスマイヤーの大きな功績であろう。(レクイエムに関しては2011年12月11日の第144回定期演奏会のプログラム・ノートを再掲載した。)



## 中村 勝樹 ● ピアノ Masaki Nakamura, Klavier

和歌山市在住。武蔵野音楽大学卒業後、クラフ音楽アカデミー研究科、ワイマール国立「フランク・リスト」音楽大学大学院修了。飯塚新人音楽コンクール入賞。上野智美、藤井和子、遠藤一枝、遠藤秀一郎、川崎隆、J.ウコヴィッチ、H.チェルニー=ステファンスカ、G.ケーラー=シャルラッハ各氏に師事。在独中のワイマールでのリサイタルを皮切りに、ドイツ国内やスイス等で演奏活動を行う。帰国後はソロやデュオでのリサイタルを中心に活躍し、NHK名曲リサイタル、木曜リサイタルシリーズ、サマーミュージックフェスティバル大阪等にも出演する。近年は教育面にも注力しており、ビティナ、シヨパン国際コンクールin ASIA、日本クラシック音楽協会から指導者賞を授与される。現在、大阪芸術大学客員准教授、大阪音楽大学非常勤講師。https://piano-wakayama.jimdo.com/



## 田中希美 ● ソプラノ Nozomi Tanaka, Soprano

相愛大学音楽学部卒業、同大学研究科修了。ドイツ・ケムニッツ歌劇場「魔笛」の夜の女王でドイツデビュー。オペラでは特にコロラトゥーラのもの得意とし、また宗教曲・合唱曲のソリストとしても活躍。ヴォイストレーナーとして、多くの若いソリストや合唱団、高校・大学のサークルの指導にもあたっている。

関西二期会正会員。



## 高原いつか ● アルト Itsuka Takahara, Alt

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。第九や宗教曲のソリストを務める他、各地のコンサートに数多く出演。2016年12月ベルギーにてベルギー日本国交樹立150年記念行事「モーツァルト記念合唱団・ベルギー王立児童合唱団

カンターテドミノ」合同演奏会にソリストとして参加。現在、神戸市混声合唱団団員。



## 松原 友 ● テノール Tomo Matsubara, Tenor

東京藝術大学卒業、同大学院修了。ミュンヘン音楽大学大学院、ウィーン国立音楽大学卒業。第14回松方ホール音楽賞、第81・83回日本音楽コンクール第3位・岩谷賞、第71回文化庁芸術祭新人賞受賞。武蔵野音楽大学、同志社女子大学、相愛大学、大阪音楽大学、大阪府立夕陽丘高校音楽科各非常勤講師。東京二期会会員。



## 松下 雅人 ● バス Masato Matsushita, Bass

国立音楽大学首席卒業、同大学院オペラ科修了。矢田部賞受賞。国際ロータリー財団奨学生としてモーツァルトウム音楽院に留学。ドイツ・ボン歌劇場の専属バス歌手を務め、著名な演奏家と共演。帰国後はオペラをはじめ全国各地で演奏活動を展開。近年は公演プロデュースにも力注ぐ。

現在、名古屋音楽大学教授・学部長。

## モーツァルト記念合唱団 Mozart Choral Ensemble (合唱指揮：益子 務 Chordirigent : Tsutomu Masuko)

1991年にモーツァルト室内管弦楽団の要請を受け特別編成された合唱団。女声は若手プロを中心に、男声は合唱王国関西の著名合唱団の指揮者、パートリーダーに参加を要請、1991年7月に益子務氏の指揮のもと発足、同年12月モーツァルト没後200年を記念してモーツァルト室内管弦楽団第48回定期演奏会でモーツァルトの「レクイエム」を協演後、毎年協演を重ねる。93年初の単独自主公演でジャニーヌ・ワグナー氏を客演指揮者に迎え、「ロジェ・ワグナー・メモリアルコンサート」を開催。98、2000年ベルギー・フランドル政府の招きで文化交流使節として2度にわたりベルギー演奏旅行を行い、ブリュッセルのサン・ミッシェル大聖堂での演奏、FM-3での放送などで大成功を収めた。2000年設立10周年記念にCD「ロシーニ小荘厳ミサ」をリリース。2010年には神戸で行われた日本音楽療法学会での大会長公演、2011年モーツァルト室内管弦楽団との合唱団創立20周年記念コンサートに引き続き、2012年には合唱団の自主公演として20年の歩みを記念したコンサートをいづみホールで開催。今年25周年を迎えるにあたり、「日本—ベルギー国交樹立150年記念」コンサートを開催後、「ベルギー—日本国交樹立150周年行事」としてベルギー、アールステ市(聖マルティヌス教会)、アントワープ市(聖パーフェス大聖堂)にてクリスマス大ミサを演奏旅行。

ソプラノ	赤城 史穂	島谷 陽子	杉野 楽夢	銭田 美幸	谷本 由美	友金 郁子
	平芳真寿美	松井ひとみ	御池あゆみ	山本 真紀		
アルト	以倉安希子	井村 園子	古結 洋子	佐野 康子	外山 有香	中根 佳江
	林 理恵	森田 裕子				
テナー	岡本 弘信	桑田 明和	近藤 達夫	陶山 悟嗣	辻 幸二郎	古川 完
	前山 典彦	吉田 均				
バス	小島 博	二階堂哲雄	野村 透	秦 大	林 龍太郎	ピーター・フィンケ
	米岡 実	渡邊 守				
練習ピアノ	植松さやか					



## 門 良一 ● 指揮 Ryoichi Kado, *Dirigent*

1939年大阪生まれ。1962年京都大学理学部物理学科卒業、67年同大学院終了。京都大学オーケストラには学部、大学院を通じて10年間在籍し、フルート奏者、指揮者を務め、同オーケストラの発展に多大な貢献をする。また、客演指揮者の故近衛秀麿、故朝比奈隆、故岩城宏之、故若杉 弘、故奥田道昭、秋山和慶各氏等のもとで副指揮者を務め、薫陶を受ける。70年モーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり、同楽団を日本有数のプロ室内オーケストラに育て上げた。モーツァルト、ハイドン等の古典派の作品を35人の室内オーケストラで優雅に繊細に演奏する独自のスタイルを確立している。企画力にも優れ、モーツァルトの「予約演奏会の再現」やオペラ《イドメネオ》の世界初ノーカット上演などの大きな企画を成功させている。また、世界的名手との協演も多く、ピアノのマリア=ジョアオ・ピリス、シプリアン・カツリス、ヴァイオリンのライナー・キュッヒル、ホルンのペーター・ダム等との協演においてはソリストの絶大な信頼を得て大成功を収めている。近年は古典派だけでなく前期ロマン派やフランス音楽においても、企画、演奏両面で注目すべき成果を上げている。アマチュアの指導にも熱意を持ち、京都産業大学神山交響楽団の音楽監督・常任指揮者を創立時より務めている。モーツァルト研究者として知られ、1982～2011年NHK大阪文化センター、1992～2011年同神戸文化センターにおいて「モーツァルトを聴く」の講師を務める。京都産業大学名誉教授。



## ● NPO法人モーツァルト室内管弦楽団 *Mozart-Kammerorchester Japan*

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、48年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア=ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を開催。また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を、15年からは〈創立45周年シリーズ〉を開始している。2017年2月NPO法人となる。

### 《メンバー》 コンサートミストレス 鷺山かおり

第1ヴァイオリン	鷺山かおり	本多 智子	稲庭真理子	松本 紗希	森住 憲一	北村 奈美
第2ヴァイオリン	田淵 彩華	都築紗智子	青砥 華	徳田 雅子	田原口安代	嶽 織江
ヴィオラ	上野 亮子	三上 哲	白木原有子	高野ちか子		
チェロ	木村 政雄	三宅 香織	柳瀬 史佳	成川 昭代		
コントラバス	田中 寿代	土屋 綾子				
フルート	大江 浩志	西鼻 真子				
オーボエ	藤原 博司	長島 加奈				
クラリネットとバセットホルン	高橋 博	島田 香				
ファゴット	佐伯 利之	倉永 晴美				
ホルン	佐藤 明美	岩井理紗子				
トランペット	大西 由起	森下 智穂				
トロンボーン	中村 文香	鈴木 智	寺谷 糧			
ティンパニ	福井 鈴					
インスペクター	中川 敦史					
ライブラリアン	本多 智子					



会長 谷口 安平 (京都大学名誉教授)  
 監事 玉井 英二 (三井住友カード特別顧問)  
 顧問 伊藤 郁太郎 (大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長) 梅原 猛 (国際日本文化研究センター顧問)  
 (50音順)

《法人会員》(50音順)

荒川化学工業	三孝社	ダイキン工業	福山製紙
関西電力	サンデーホールディングス	高松建設	マキ工業
きんでん	新日鐵住金	中西金属工業	三井住友カード
小林製菓	住友生命保険	羽車	三井住友銀行
阪野商店	住友倉庫	林六	

《個人会員》(入会順・敬称略)

深田晴世	馬場明和	松山井香	子代	筑瀬重喜	野村正朗	朗子
福原隆一	阪野田名	山大磯道	一子	苧松規	田中江	好子
梅本三克	和桑石高	大大橋	司博	阪藤江	釜東三	夜久
岸田博也	川島田	大橋松	博一	民松藤	早山	子久
梅村良巳	川島田	松山松	子男	江民松	久木山	子久
屋友正和	豊切三	山萬松	昭子	村山須	秦松吉	次典
國垣千代	神杉野	松萬松	久子	山須分	野田原	雅幸
稲浮山	杉野玉	松萬松	行明	野田橋	山之口	卓子
桑山谷	野橋有	松萬松	介美	田橋瑞	内海下	子幸
三浦島	佐野柳	市櫛門	司二	土富笠	山小森	子幸
水渡平	小田島	櫛門森	明郎	米太富	山圓	子幸
安藤川	松得菱	森長富	二郎	笠米太	圓笠	子幸
阿中本	松得菱	長富乾	郎繁	米太富	笠作木	子幸
村松本	松得菱	乾井井	繁登	太富和	作木内	子幸
笹川林	松得菱	井井原	弘次	和栢小	内前	子幸
緒井昭重	松得菱	原村東	次介	栢小早	田海	子幸
碓井田	松得菱	村東増	介子	小早川	田海	子幸
長岸能	松得菱	東増関	隆小	早川金	田海	子幸
祐野定	松得菱	関見	夜香	金西久	田海	子幸
金定高	松得菱	見	子香	西久木	田海	子幸
日藤原	松得菱	曾我	夫夫	久木山	田海	子幸
	松得菱			中西規	田海	子幸
	松得菱			律崎成	田海	子幸
	松得菱			成之助	田海	子幸
	松得菱			哲久	田海	子幸

会費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。・法人会員につきましては年会費1口10万円です。  
 会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口につき個人各1枚、法人各5枚)  
 ・ご同伴者は10%割引となります。  
 ・関連演奏会のご案内またはご優待を致します。  
 ・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。  
 ・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。